



■十日町市の市章

十日町市の「十」の字を温かみのある「人」のイメージにデザイン。「橙」は明るい未来を照らす太陽、「緑」は豊かな恵みをもたらす母なる大地、「水色」は大地を潤す大河信濃川。キャンパスの「白」は雪と未来です。豊かな自然の中で、新たな発展を目指す十日町市民の夢と希望を表現しています。



■市の木／ブナ



■市の花／ユリ

十日町市の プロファイル

市の概要

十日町市は、新潟県の南部にあり、周囲は山に囲まれ、冬には2mから3mの積雪がある日本有数の豪雪地帯です。市内に流れる信濃川と浪海川水系沿いに水田が広がり稲作が盛んです。十日町市は、魚沼産コシヒカリの産地としても名高く、里山に広がる棚田は、日本の原風景を思い起こさせます。十日町地域は織物や着物の日本有数の産地で、市の西部には宿場町だった松代や温泉地として有名な松之山があります。また、笹山遺跡から発掘された火焔型土器は、縄文時代の遺物として初めて、新潟県としても初めての国宝に指定されました。

都市宣言

●スポーツ健康都市宣言 平成18年10月9日

【宣言】「楽しもつスポーツ、へうら健康」私たち十日町市民は、そして健康で文化的な生活が営まれることを祈念し、スポーツを通して体力づくりと健康増進に励み、友愛と協調の輪を広げるとともに、その力を結集して楽しもつスポーツ、つこう健康のまち十日町市を築くため新しい市の発足にあたり、「ここに」スポーツ健康都市を宣言する。

●交通安全都市宣言 平成19年9月22日

【宣言】交通事故のない安全で住みよいまちの実現は、市民共通の願いです。私たち十日町市民は、交通ルールを守り、交通事故のない安全で安心して生き生きと暮らせるまちの実現に努力することを決意し、ここに十日町市を交通安全都市とすることを宣言します。

●核兵器廃絶平和都市宣言 平成19年12月1日

【宣言】雪・自然・農が織りなす温もりと躍動のまち、十日町市に住むわたしたちは、人と文化と郷土を愛し、平和で心豊かな、明るいまちをつくりたいと念願しています。わたしたちのまちは、長年にわたり、被爆者の苦しみを思い、市民活動をおとしめ、長崎と手を携えてきました。このきずなを大きく育て、平和を愛する世界の一人と手をつなぎ、核兵器のない社会を次の世代に継承することがわたしたちの責務であります。わたしたち十日町市民は、日本国憲法の平和を求める崇高な理念に基づき、すべての国がすみやかに核兵器を廃絶し、平和な国際社会を築くことを強く求めます。ここに十日町市は「核兵器廃絶平和都市」であることを宣言します。



■市議会議長／小堺清司



■副議長／庭野政義

■副市長／村山 潤

■十日町市長／関口芳史

■教育長／蔵品泰治

姉妹都市 コモ市

「絹で結ばれた2つの都市
温かい交流の絆を次の世代へ」

イタリア北部、商業の中心ミラノからほど近くにあるコモ市は、ヨーロッパ屈指の伝統あるリゾート地です。また、十日町市と同じく絹製品の産地としても名高く、それが縁で1975年2月27日に姉妹都市関係を締結しました。1991年には民間の十日町・コモ姉妹都市交流協会が設立され、コモ市の文化交流団体「アマリア・コマスカ協会」との文化交流もスタートしました。締結以来続く5周年ごとの記念行事や使節団相互訪問、そして現在は、青少年交換留学事業、コモ市フォトコンテストへの出品、両市の小学校間の交流などが毎年行われています。また各種のフェアやコンサート開催、ビデオクルや芸術家による作品制作、文化・世界平和に関わる多くの人材の交流やさまざまな催しが活発に行われてきました。2010年には姉妹都市提携35周年を迎え、交流は次の世代へと着実に受け継がれています。



2010年、姉妹都市提携35周年を記念した公式訪問。40人の親善使節団がコモ市を訪問しました。



2011年5月、被災した十日町市や東北地方を慰問するためコモ市よりきたハーブ奏者の「ファビウス・コンスタンブルさん(37歳)。震災で大きな被害を受けた奴奈川小学校での演奏(奴奈川小と浦田小の児童17人の前で)。

国際交流 in 十日町市

サッカー交流

クロアチア

世界水準の練習ピッチが育んだ
クロアチアとのスポーツ交流

十日町市とクロアチアの交流は、2002 FIFAワールドカップで、同国代表チームがキャンプを行ったことをきっかけに、これまで脈々と続いてきました。代表チームが練習に使った国内最高水準の多グラウンドは、クロアチア代表選手の名がつけられ、毎年秋にクロアチアカップ・サッカー・フェスティバルを開催しています。2010年10月には「クラブ・ウズ」ジャパン・クロアチア・フレンドシップ・ハウスを着工しました。長年友好を培ってきたドラゴ・シュタンク駐日クロアチア大使のご厚意により、基本デザインを同国の著名な建築家「P&Rアーキテクト」のウイニコ・ベネディチ氏とクレシメル・ロギナ氏から無償提供いただきました。スポーツ交流や「国際交流の拠点として、プロチームや子どもたちにももちろん、多くの市民から愛され、素晴らしい交流の場となること」が期待されています。



2010年3月「ジャパン・クロアチア・フレンドシップ・ハウス」プロジェクト発足の調印式。2012年春に竣工予定。



「クロアチアカップ・サッカー・フェスティバル」の授賞式には、駐日クロアチア大使に毎年お越しいただいています。

